

鳥羽市地域公共交通会議 会議録

会議の名称	令和6年度第1回鳥羽市地域公共交通会議全体会
開催日時	令和6年12月18日(水) 10:00~12:00
開催場所	鳥羽市役所西庁舎 4階 大会議室
議題	1. あいさつ 2. 議事 議題第1号 地域公共交通確保維持改善事業等の評価について 議題第2号 鳥羽市地域公共交通計画の改訂スケジュール等について 議題第3号 かもめバス循環便について 3. その他 (1) 鳥羽市公共交通機関総合時刻表について(案内)
会議資料	席次表・委員名簿 事項書 議案書と別添資料を綴じたもの 別冊1 令和6年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価 (及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体) その他資料 1 鳥羽市公共交通機関総合時刻表
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	5人
出席委員	立花会長、加藤委員、藤原委員代理清水氏、川北委員、濱崎委員、橋本委員、瀬崎委員、小島委員、小磯委員、下里委員、藤田委員代理前田氏、今井委員、中田委員、中村委員、山本委員代理垣内氏、清水委員代理岩佐氏、木下委員、西川委員、山本委員、天野委員、小寺委員、岡本委員、榎委員、福田委員 24名
オブザーバー	なし
欠席委員	小崎委員、世古委員、山下委員(志摩建設事務所)、豊田委員、清水委員、濱田委員、高浪委員
事務局	定期船課 山本、西根、斎藤 企画財政課 斎藤、勢力
<p>1. あいさつ</p> <p>○事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・配布資料の確認 ・出席報告(31人中24人出席) <p>○会長挨拶</p> <p>みなさん、年の瀬のご多忙の中お集まりいただきましてまことにありがとうございます。また、平素より本市の公共交通に多大なるご理解とご協力をいただいておりますこと、重ねてお礼申し上げます。</p> <p>今年是新船就航とそれに伴う中之郷定期船乗り場の廃止、定期船のダイヤ改正、かもめバスとの連携もさせていただきました。皆様のご理解とご協力をもちまして、大きな混乱等なく運行させていただいております。この場をお借りしてお礼申し上げます。</p> <p>さて、本日の主な議題としては、「地域公共交通確保維持改善事業」の評価等について、また、次年度をもって計画期間満了となる、鳥羽市地域公共交通計画の改訂スケジュール等に関する協議、それから、かもめバス循環便について の3点でございます。</p> <p>市民の移動手段を守り、地域経済を支える交通を作り上げ、守っていくには、交通事業者の皆様、市民の皆様とのご協力が欠かせません。</p> <p>本日の議論が、地域の実情やニーズに即した施策立案・交通の構築につながることを期待しておりますので、委員の皆様におかれましては、どうぞ、ご忌憚のない意見をいただきますようお願い申し上げます。</p> <p>本日は、よろしく願いいたします。</p>	

2. 議事

(1) 議案第1号 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について

○事務局説明

議題書及び資料に基づき説明。

○委員からの質問等

・委員（利用者）

定期船及びバスの評判について紹介する。

- ・バス停について、あそこへ移り非常に助かっている。しかし、バスが停車するようになり自動車3台分の停車スペースがとられてしまったことは利用者にとってマイナス。一般車も停車するエリアであるにもかかわらず、バス停の路面表示がないので表示してもらいたい。密閉空間でないので空調などが心もとないという意見もあるが、バス停自体は、概ね良好にとらえられている。
- ・定期航路については、離島住民の方々からも新船は好評である。特にバリアフリーが良い。
- ・観光客から、新船と旧船は同じ料金なのか、安くないのかという意見がある。
- ・新船の窓のステッカーについて、景色が見えないので余分ではないかという意見がある。
- ・乗継時間については、要望がある程度聞き入れられているということで高評価をいただいている。
- ・マリンターミナルにて定期船の運航状況やバスの時間がわかるようになり、広報でチラシも配っていただいていた。
- ・加えて、船内モニターにバスの乗り継ぎのことを表示していただけるとわかりやすくありがたい。
- ・9月のダイヤ改正に合わせた老人クラブへのバスの乗り方教室が未実施であるので、早急にやっていただきたい。
- ・中村クリニックやハローに向かう人たちが新しい時間のバスに乗っている印象。その点は非常に良かった。

・事務局

ミジュマルのステッカーは、集客のためとご理解いただきたい。住民の方からそういう話があれば、航路維持のためには必要ということでご説明をお願いしたい。

バス停の区画表示の件は、管理する三重県からは区画線を入れてくれるという約束はいただいているが、少し遅れている。新年度の早々には区画を入れ、一般車の駐車制限をする予定。

老人クラブ等のバスの乗り方教室の件については、市老連の会議の際、乗り方教室の開催をアピールしているがなかなか広がっていかない。離島の会長さんに直接アプローチをして説明の機会を設けていきたい。

バスの乗り継ぎのモニター表示について、待合室内ではなく船内のモニターで、ということか。

・委員（利用者）

マリンターミナル内のモニターに表示しても離島住民は見ないのではないか。船から降りるときが肝心。船内でバスの乗り継ぎ時刻などを確認出来たらよいと思う。

・事務局

検討させていただきたい。

・委員（利用者）

以前事故があったマリンターミナルの荷物置き場のところの塀について、その後いかがか。

・事務局

バス停の区画線の話とあわせて県に要望をしている。それも一緒に実現できると思っている。

・委員（利用者）

危ないのでなるべく早くお願いしたい。本人はまだ後遺症があることを知っておいて欲しい。

・事務局

塀が変われば視認性が上がるものの、位置・構造上通路になってしまっているのが、根本解決とはならない。荷物を預けに来る人への注意喚起が肝要と考えている。そのあたりは、また違う方面から注意をさせていただきたい。

・委員（観光）

中部様式 P5 のバス停について、南東の風のとき上下に風を逃がすような部分から風雨が吹き込む。安全上のために必要と理解するものの、待合所内で傘を差すような状況になる。これは現物ができる前から懸念していた点である。定期船乗り場側からバスに乗れるようになったことはありがたいが、これではプラスマイナスゼロである。荒天時にそのような状況となることについて、せめてここにいる委員の方に見に来てもらったらいい。バス停ができて便利になったのではなく、バスと船の時間の調節をしていただいたから便利になった部分大きい。また、待合所のサイズが小さい。安全上この大きさしか確保できなかったというのは理解できるが、もう少し屋根の庇が外に出ていて長いものにしていただけたら、雨の吹込みも少なかったのではないかと思う。

バスロケーションシステムの導入については、市民より観光客のためのものではないか。使用すると確かにアプリで「何分遅れています」などの表示が出るが、検索画面上で「この区間の経路情報を確認」をタップすると、「エラー」と表示される。本当はどんな表示が出てくるのか。また、時刻表にはスマートフォン用と携帯電話用の2つのQRコードが記載されているが、バス停にはスマートフォン用のQRコードしかない。携帯電話とスマートフォンをあえて分けてあるのは何か意図があるのか。お年寄りが使用している携帯電話ではうまく作動しないことがあるため、とても使いにくい。

ハッピーチケットなどの販売について、イオン内のサービスカウンターで販売しているそうだが、販売窓口気づいたことはない。PRしたいのならばもう少し目立ったものにすべき。サイネージをイオンに置くなどして、販売していることがわかるようにしてほしい。

かもめバスについて、利用者数の中で、ICカード利用の割合はどの程度か。あるいは定期券の人が何人なのか。ICカードを導入してからどのぐらい効果があったのかを紹介いただきたい。

また、かもめバスの乗り方教室について、教室を開催するのもしよいかと思うが、開催日に都合がつかなかった方はそれっきりになり取りこぼしてしまう。スタッフもそうそう離島には行けない。先ほども船内のDVDを利用したらどうかという話も出ていたが、バスの乗り方についても、乗り方のショット写真などを船内で流せたら良いと思う。先ほども出ていたが、バスに乗る前に船内で乗り継ぎ便のことがわかったらとても便利だと思う。

・事務局

バスロケーションについて、確かに検索画面の「この区間の経路情報を確認」を押すとエラーが表示される。他の各路線を調べてみたが、そこを押しても運賃や路線について表示されてしまう状況である。三重交通のページに飛ぶような形になっている。三重交通のシステム上まだ情報を出すように構築ができておらず、エラー表示されてしまうのが現在の状態。

ハッピーチケットについては、ハローから経営がイオンに変わったことで、販売窓口がサービスカウンターではなく、銘店売場に変更となった。イオンとは、販売窓口の案内表示を申し入れている。

ターミナルにあるサイネージには、現在、上が船の情報、下がバスの情報とともに、乗り場の案内を表示しているが、そこにハッピーチケットの情報の画面を加えることは可能。イオン内や乗り継ぎのところへの表示も加えていきたい。

乗り方教室について、確かにその1日に行けないというのはあると思う。検討させていただきたい。

バス停のサイズについて、あれ以上は大きくできない。また、あの立地の中で雨を避けてバスを待つという手だてを考えにくいというのが正直なところ。9月に設置してから、雨風の吹込みなどに関して様々なご意見を聞いているが、まだもう1年ぐらい様子を見て検討していくしかないと思っている。

・委員（利用者）

バス停の造りの件で、漁師の方によるとまだ大きな台風と強い季節風を経験してないので、大きな

台風がくると根こそぎ全部飛んでいく可能性があると言っている。ただ、反対の歩道に帆がついているが、あれは設置してから大分経つ。あれが大丈夫なので大丈夫かと思うが心配である。先ほどの意見でプラスマイナスゼロという表現されたが、まさに住民の人は、そんな感じで見ていると思う。それをどう直していくのか努力しなければいけない。

・事務局

一般的に、バス停は風速 37 メートルまで耐えられるとの基準がある。他のバス停よりは頑丈なものを選んで建てているが、いつ飛ぶのかという心配はいつもありながら、上下の空間を閉められずにいる。また、飛んでいかないことが最優先で対応を考えており、大きな台風でも大丈夫だったということになれば、その都度考えていく。そして、バス停がどこまで快適でないといけないうところも考えていく。いろいろな意見いただきたい。

・会長

当初議論していたが、以前あそこは石がたくさん置いてあるところで限られたスペースだった。やはり波風のことも心配なので、既製品で設計を全部やってあるものがよいということで、最善の努力をさせていただいたつもり。完璧にしようと思ったら、下から全部コンクリートでつくることになる。やはりあそこで作るだけでも建築確認など全部とらなければいけない。様々な制約があり壁に阻まれていた。努力した結果が、今の待合所である。しかし、結果次第なのでまだ考えることが出てくる。今は各種制限の中で、努力させていただくということでご理解ください。見守りながら、対応策を考えていきたい。

・委員（公募）

ハッピーチケットについて、外国人がなぜ使い始めたのか把握しているか。また、どうしたらもっと使ってもらえるようになると考えられるか。

・事務局

まず浦村の牡蠣屋で働く外国人が買っている。広まった理由は、鏡浦連絡所で外国人の方へPRをしてくれているためである。一方で、鳥羽ではハッピーチケットを使用していない人が見受けられる。鳥羽で就労する外国人労働者は公共交通利用の割合が高いことから、介護施設や宿泊施設にPRをかければ、ハッピーチケットを知ってくれる機会につながると考えられる。

・委員（公募）

イオン鳥羽でも近くに住んでいる様子の外国の方が増えた。ぜひそちらの方面にもチケット使ってもらえるような働きかけをしていただきたい。

・委員（学識経験者）

乗り継ぎをやすくすると待合所はあまり必要がない。船にて乗り継ぎの案内し、降りたところにバスがすぐくるか、少し時間がある場合はマリントーミナルで待つようになるようにすべき。

風雨のときは外で待つのではなく、マリントーミナルで待つように案内すべき。マリントーミナルにバスに乗り換える人用の椅子を作っておいて、そこに「まもなくバスが来ます」などわかるようにする、あるいは、バスが着くところにWEBカメラを置きバスが来たことがすぐわかるようにするなど、方法は様々考えられる。今はそういうことができる時代。

船内や栈橋で画面を見えることで、バスを使っていない方でも意識することができ、自分が乗り換えようと思っていなくても、乗り換えることができると意識づけされる。普段関心がない方にも、見ていなくても見えるようにすることで乗り換えがあると意識される。そういうことが大事。これから検討しましょうと言うが、こういったことは、当然に当初からやっておくべきことである。

これは基本的なことだが、マリントーミナルそのものの配置が悪い。定期航路の栈橋にはバスは横付けできるべきであった。市がこれから作る施設はバスが横付けできる構造とすべきである。他自治体や病院などでは、玄関前にバスが停車し、バス停から屋根で接続する造りとなっている。これからの鳥羽市はそれやってほしい。

バス停の路面標示について、伊勢市ではわかりやすく表示がされている。一般車が停車しやすいマリンターミナル前は絶対必要であり、本来、待合所より先に対応すべきであったが、それができてないのはコンサルティングが悪いということ。よく路駐しそうなところや待ち時間が長いところには、路上にはみ出して書いてあげる。そこにバスが止まるということが一目瞭然なので、そこにバス以外の路上駐車をする人はいない。そういう風にやってほしい。

外国人について、外国人観光客にも言えるが全国的に外国人の方がバス通勤などの利用が多い。そのとき、なるべく安い方法を考えるのでハッピーチケットが利用されるのだと思う。ハッピーチケットと聞いたとき、回数券を想像する人はほとんどいないのではないかと。表記を「ハッピーチケット(回数券)」とわかるように書いてあげるといい。どこのバスでも、日本人より外国人の方がこういう割安なチケットを知っていて、一方で日本人は知らない場合がある。日本語のアナウンスは通用してないのかなと考える必要がある。また、外国人が増えてくれば標準的によく使用される国の言語のものも作っていかなくちゃいけない。

新船の件については、確かに観光客が船に乗って観光すると思ったらいい船に乗った後に古い船が来ると安くしてほしいと思うのは理解できるが、生活手段なので、そのような運営は難しい部分がある。できれば新船がどの時間に入るかを初めから示せば一番いい。例えばXなどのSNSで今日の新船の運航はここですと示す方法が考えられる。それでスケジュール変える人がいるかどうか分からないが、マリンターミナルや鳥羽駅でも今日の新船はこの時間に運航しているということがわかると、ただそれを見ただけでも写真撮りに行くことができるようになるという風に思う。そうでないと一日中待ってはいなくてはならない。

ロケーションシステムについては、観光客にとってハローはあんまり関係ない。途中で遅れたなどの情報が欲しいのは市民。遅れているからマリンターミナルで待つ、乗り換えがもうすぐ来るなど誘導でき、わかるようにすることを優先すべきである。

事業評価の説明について、事務局は、国様式を説明した後に中部様式を説明したが、なぜ説明しにくいものをわざわざ先に説明したのか。先ほどから、事務局は最善を尽くしていますというが、ほとんど無意味。こういうのができました、できてないので、なんとかします、そこは気づかなかったのので今度やりますと言えよ。最善を尽くしているという割には説明の仕方や内容に最善が尽くされていない。離島の方に一番大事なものは、中之郷に行けなくなったことについて、困ったと思っていたことが今回、どのくらい考慮されているかということである。今回の新しい取組について特に離島の皆さんがどう思っているかの調査をしてほしい。できれば、これ1月17日までに聞き取って共有してほしい。

PDCAとしては、徐々にやっていただければいい。

・事務局

新しい船と古い船の話があったが、新船のはばたきは毎日どのダイヤで走っているなどサイネージとホームページに載せている。観光客の方の話は重々承知しているところ。

新船について、今も発信させてもらっておりますしもっと発信をして乗ってもらうことが必要だと思っている。またいろいろなご意見をお願いしたい。

○採決

・会長

原案に対し、先ほどいただいたご意見をもとに修正を加えることで、お認め頂くという事でよろしいか。

(異議なしの声有り)

(2) 議案第2号 鳥羽市地域公共交通計画の改訂スケジュール等について

○事務局説明

議案書により説明。

○委員からの質問等

・委員（学識経験者）

具体的に立地適正化計画との関係をどうするのか、何か考えられるか。

・事務局

立地適正化計画は今年度と来年度で作る予定になっており、具体的にというよりも整合性が図られるようにお互い違う方向を向かないようにというところを事務局で調整をしていきたい。

・委員（学識経験者）

コンサルが入る必要はないと思う。駅も決まっており、定地もここしかないが決まっている。立適（立地適正化計画）との関係は別にほとんどあまり考えなくても確認できる。

立適よりも観光施策との連携を考慮すべき。これは観光客の方にも期待されること。計画を作り、いい公共交通を作るにはどういうニーズが求められるのかというところをきちんと見ていないといけな。どのような計画との連携が必要かという、私の中で公共交通計画に一番欠けたのは観光施策だと思う。本来ここでやらなくてはいけないことを理解できていないようなコンサルにはやらせたくない。そういうコンサルは、ここに立適と書いてあると、そこでやってきた過去のものをコピペして作る。そんな計画は鳥羽市には不要である。鳥羽市に必要なものは、鳥羽市にはどういう課題が大事で、それに対して公共交通をつくるか、鳥羽市は一体どんな施策をやりたいのか、こうしたコンサルに提案していただい。そうなると、ある程度鳥羽市を理解していないといけな。プロポーザルもきちんと考えないととんでもないことになる。一番気を付けてほしいのは観光政策との連携ができていないということ。それは、鳥羽にとっては良くないということ。

鳥羽は交通空白地より交通空白時間、夜でタクシーがどうか言っていることがまさにそこにあたる。地域公共交通計画に今だととても大事に関われるべきだと思っている。そういうことをちゃんと認識しているコンサルであるか。分かっていると時代遅れの計画になる。令和7年にこの鳥羽で何をしなくてはいけないかということが、提案できるところにちゃんと仕切っていただきたい。

・事務局

ご指摘のとおり、立地適正化だけではなく、観光振興に関する施策も連携するように考えていかなければならないと思っている。今回の立地適正化と公共交通の計画を土台に、鳥羽で進めている駅前周辺のビジョンの作成というところにも繋げていきたいと考えている。そういったところを全面的に、多面的に見れるようなコンサルにしていければと思う。

・委員（学識経験者）

もっと具体化して考えるべきではないか。立適を作るにあたり、公共交通とこういうふうに連携していきたいので、こう連携をするなどと一緒に考えることがいいと思っている。多面的とは何でもありということ。何も言っていないも同然。総合計画はいろんなことを考えなくてはいけないが、立適や地域公共交通の計画はそうではない。どう利用していただくか、どういうふうにこの地域を将来的にこういう構造に持っていくことにするかというもの。コンサルティングしても、そこをちゃんと考えておられないのはどうしようもない。

・会長

立地適正化計画の話ででたのは、交通ネットワークの関係の整理かと思う。そこよりも、現状はどういう風に、使いやすいネットワーク形成していくかに重きを置いた方がよいというのが先生のご意見。その辺も含め、立地適正化計画に固執せずこれからこのことを見据えていくべき。特に駅前のビジョンの関係には、交通接点や乗りやすさ、案内のしやすさなど、当然一番大きく考えていく部分。市民の皆さん観光客の皆さんが使いやすい交通体系にするにはどうすればよいのかということを考えていながら来年の計画を作っていく。そこにどういう業者を設定していくかというようなプロポーザルにしてきたい。

・委員（運輸支局）

現計画が令和7年度までという計画期間になっているので、8年度以降の計画をつくることになる。鳥羽市においては色々と大きな状況の変化がある中での次期計画になるだろう。国の方も交通空白の關係に力をいれ、2024年問題もあってどんどん深刻化している。なので、今現在の計画の単なるマイナーチェンジ版ということではなく、交通計画自体もアップデートしていく必要がある。国の方の動きを鳥羽市に情報提供しながら一緒に考えていきたい。

・会長

前の地域公共交通計画は事務局サイドで手作りの部分があり、具体的に欠ける部分や今後どうやって具体的にやっていくかというところが、欠けているところがあると感じている。その辺も、充実させながら、新しい計画を焼き直しではなく、現状のいろんな社会的な動きや鳥羽市の動きを反映させた計画を作ることを目標にやっていきたい。皆様方、各機関の皆さんのご協力をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○採決

・会長

先ほどいただいたご意見を参考にさせていただいた上で、お認め頂くということでよろしいか。

(異議なしの声有り)

(3) 議案第3号 かもめバス循環便について

○事務局説明

議案書により説明。

○委員からの質問等

なし

○採決

・会長

7年度にもう少し具体的に検討させていただくということで、お認め頂くということでよろしいか。

(異議なしの声有り)

3. その他

(1) 鳥羽市公共交通機関総合時刻表について (案内)

○事務局説明

公共交通機関総合時刻表により説明。

○委員からの質問等

・委員 (学識経験者)

必ず表紙に何年何月現在と書くことは大事。できれば各時刻表も何年何月現在と書いたほうがいい。JRも例年3月に改正がある。古いものだと気づくことができるように記載は気を付けてほしい。

・委員 (観光)

ICカードの利用者について、現金とICカードの割合が知りたかった。ざっくりでよいので説明してほしい。

・事務局

かもめバスのICは、当初始まった頃は約30%。今は40%の近くまで上昇しているときもあるような状況。

4. 閉会